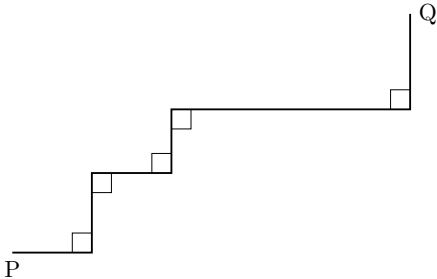


数学オリンピックワークショップ 事前演習問題 G

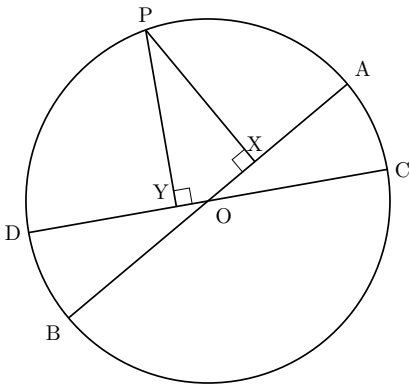
G1 (基礎)

- (1) 面積 18 の正六角形  $ABCDEF$  の内部に点  $P$  をとるとき、 $\triangle ABP, \triangle CDP, \triangle EFP$  の面積の和を求めよ。
- (2) 長さ 10 の針金を直角に 5 回折って下の図のような図形を作るとき線分  $PQ$  の長さの最小値を求めよ。

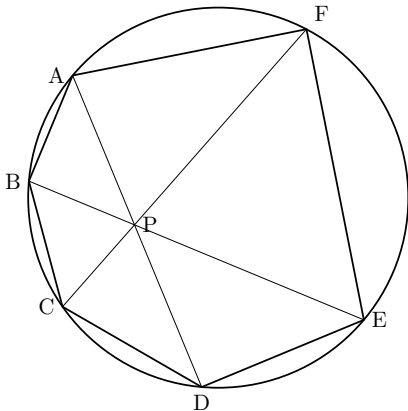


G2 (基礎)

- (1) 下図のように半径 4 の円  $O$  の直径  $AB, CD$  をとったところ、 $\angle AOC = 30^\circ$  となった。(劣) 弧  $AD$  上の点  $P$  から  $AB, CD$  に下ろした垂線の足をそれぞれ  $X, Y$  とするとき、線分  $XY$  の長さを求めよ。



- (2) 六角形  $ABCDEF$  は円に内接しており、また  $AD, BE, CF$  は一点  $P$  で交わっている。 $AB = 3, BC = 4, CD = 5, DE = 6, EF = 9$  のとき、 $FA$  の長さを求めよ。



**G3** (標準)(高校生向け)

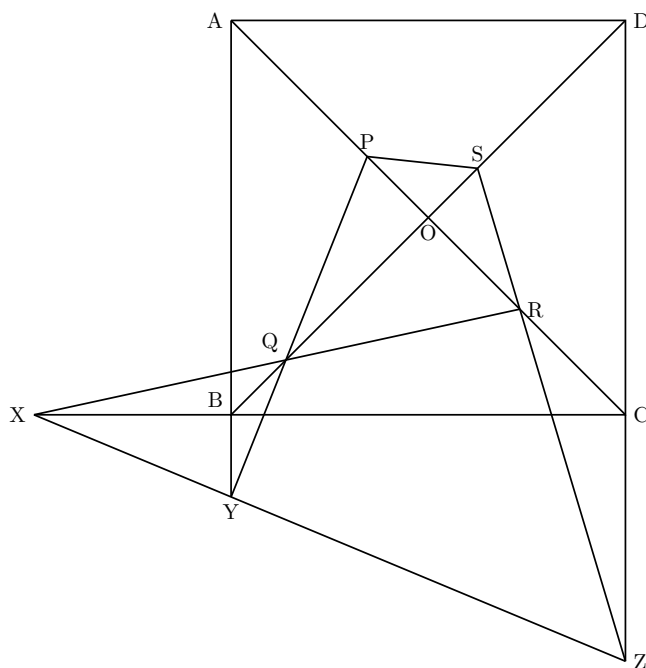
- (1) 正の実数  $x, y, z$  が以下の関係式を満たすとき  $xy + \frac{\sqrt{3}}{2}yz + \frac{1}{2}zx$  の値を求めよ。

$$\begin{cases} x^2 + y^2 = 9 \\ y^2 + yz + z^2 = 25 \\ z^2 + \sqrt{3}zx + x^2 = 16 \end{cases}$$

- (2) 実数  $a, b, c, d, e, f, g, h$  に対して,  $ac + bd, ce + df, eg + fh, ga + hb, ae + bf, cg + dh$  のうち少なくとも 1 つは 0 以上であることを示せ。

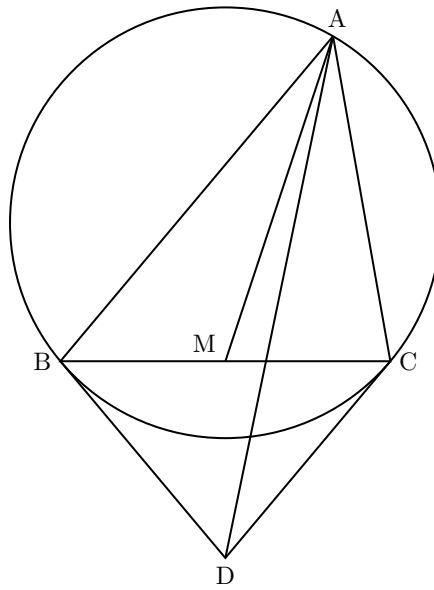
**G4** (標準)

- (1) 正四角錐  $O - ABCD$  に対して平面  $\alpha$  が辺  $OA, OB, OC, OD$  とそれぞれ点  $P, Q, R, S$  で交わっている。  
 $OP = 2, OQ = 4, OR = 3$  のとき,  $OS$  の長さを求めよ。
- (2) 正方形  $ABCD$  について,  $AC$  と  $BD$  の交点を  $O$  とし, 線分  $OA, OB, OC, OD$  上にそれぞれ点  $P, Q, R, S$  をとる。 $QR$  と  $BC$ ,  $PQ$  と  $AB$ ,  $RS$  と  $CD$  の交点を  $X, Y, Z$  としたところ, これらは同一直線上にあった。 $OP = 2, OQ = 4, OR = 3$  のとき,  $OS$  の長さを求めよ。

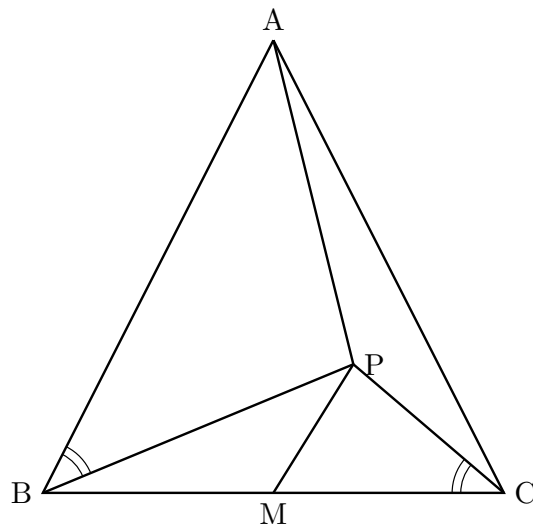


**G5** (応用)

- (1)  $\triangle ABC$  の外接円の  $B, C$  における接線の交点を  $D$  とする。 $BC$  の中点を  $M$  とするとき、 $\angle BAM = \angle CAD$  であることを示せ。



- (2)  $AB = AC$  なる  $\triangle ABC$  の内部に点  $P$  をとったところ、 $\angle PBA = \angle PCB$  となった。 $BC$  の中点を  $M$  とするとき、 $\angle APC + \angle BPM = 180^\circ$  であることを示せ。

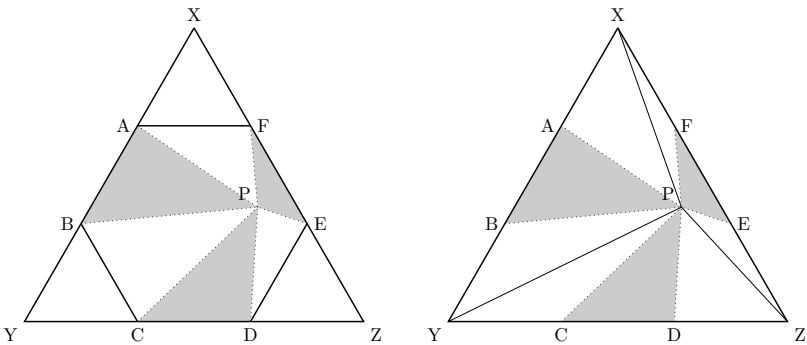


数学オリンピックワークショップ 事前演習問題 G —解答—

G1

(1) 下図のように正三角形 XYZ を作ると  $\triangle XYZ = 27$  になるので,

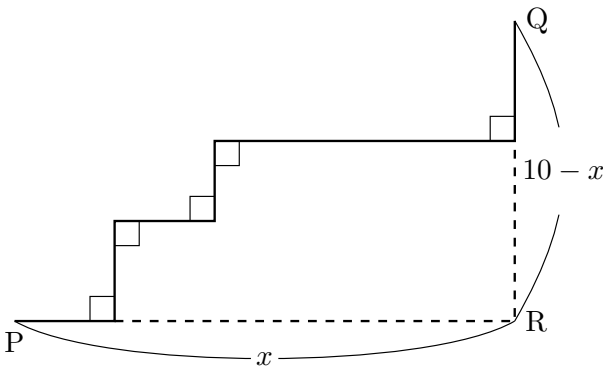
$$\begin{aligned}\triangle PAB + \triangle PCD + \triangle PEF &= \frac{1}{3}\triangle PXY + \frac{1}{3}\triangle PYZ + \frac{1}{3}\triangle PZX \\ &= \frac{1}{3}\triangle XYZ \\ &= 9\end{aligned}$$



(2) 下の図のように R をとると,  $PR = x, QR = 10 - x$  とおける。三平方の定理を用いて,

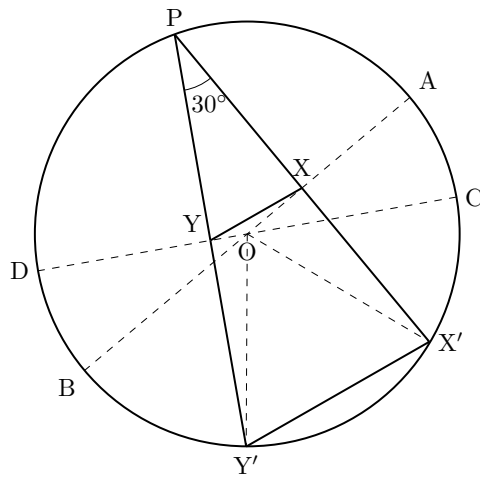
$$\begin{aligned}PQ^2 &= PR^2 + QR^2 \\ &= x^2 + (10 - x)^2 \\ &= 2(x - 5)^2 + 50 \\ &\geq 50 \quad (\text{等号成立は } x = 5 \text{ のとき})\end{aligned}$$

ゆえに, PQ の最小値は  $5\sqrt{2}$  である。



G2

(1) PX と円 O, PY と円 O の P 以外の交点をそれぞれ X', Y' とおくと, 直径に関する対称性から  $PX = XX', PY = YY'$ 。よって, 中点連結定理から  $XY = \frac{X'Y'}{2}$ 。  
また簡単な計算から  $\angle Y'PX' = 30^\circ$  であることがわかる。円周角の定理と合わせて  $\triangle OY'X'$  は正三角形。



ゆえに,  $XY = \frac{X'Y'}{2} = \frac{OX'}{2} = \frac{4}{2} = 2$

(2)  $\triangle ABP \sim \triangle EDP, \triangle PCD \sim \triangle PAF, \triangle BCP \sim \triangle FEP$  より,

$$\frac{DE}{AB} = \frac{PD}{PB}, \quad \frac{FA}{CD} = \frac{PF}{PD}, \quad \frac{BC}{EF} = \frac{PB}{PF}$$

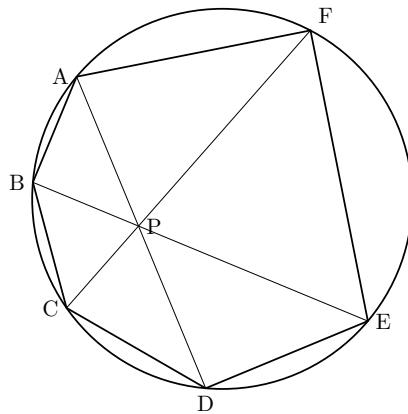
よって,

$$\frac{DE}{AB} \cdot \frac{FA}{CD} \cdot \frac{BC}{EF} = \frac{PD}{PB} \cdot \frac{PF}{PD} \cdot \frac{PB}{PF} = 1$$

つまり,

$$AB \cdot CD \cdot EF = BC \cdot DE \cdot FA$$

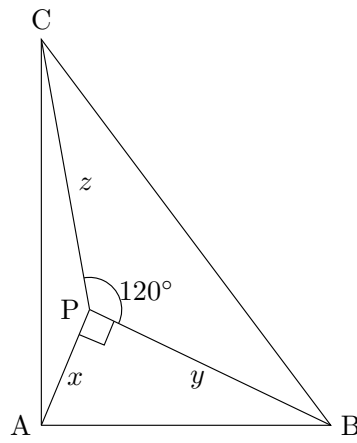
$AB = 3, BC = 4, CD = 5, DE = 6, EF = 9$  を代入して,  $FA = \frac{45}{8}$



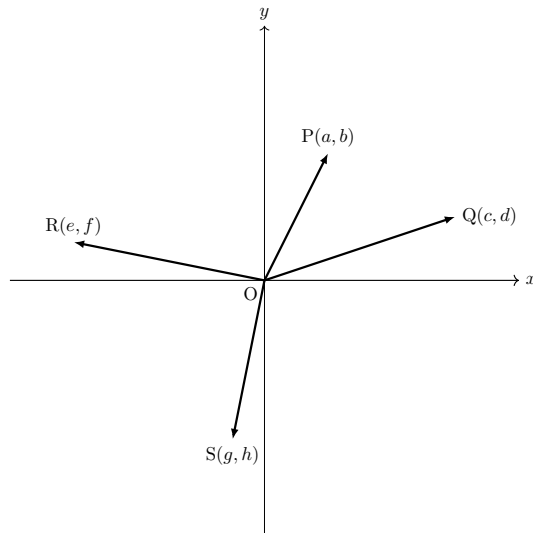
G3

(1)  $PA = x, PB = y, PC = z, \angle APB = 90^\circ, \angle BPC = 120^\circ$  になるように  $P, A, B, C$  を定めると, 余弦定理および与えられた条件式から  $AB = 3, BC = 5, CA = 4$ 。よって,

$$\begin{aligned} xy + \frac{\sqrt{3}}{2}yz + \frac{1}{2}zx &= 2(\triangle PAB + \triangle PBC + \triangle PCA) \\ &= 2\triangle ABC \\ &= 3 \times 4 \\ &= 12 \end{aligned}$$



- (2)  $\vec{p} = (a, b)$ ,  $\vec{q} = (c, d)$ ,  $\vec{r} = (e, f)$ ,  $\vec{s} = (g, h)$  とおくと,  $ac + bd, ce + df, eg + fh, ga + hb, ae + bf, cg + dh$  はそれぞれ  $\vec{p} \cdot \vec{q}, \vec{q} \cdot \vec{r}, \vec{r} \cdot \vec{s}, \vec{s} \cdot \vec{p}, \vec{p} \cdot \vec{r}, \vec{q} \cdot \vec{s}$  の 6 つの内積と対応する。  $\vec{p}, \vec{q}, \vec{r}, \vec{s}$  のどれかが  $\vec{0}$  であれば題意は明らか。そうでない場合,  $\vec{p}, \vec{q}, \vec{r}, \vec{s}$  の中からそのなす角が  $90^\circ$  以下である 2 つのベクトルがとれる。その 2 つのベクトルの内積は 0 以上。



G4

- (1)  $OA = OB = OC = OD = a$ ,  $OP = p, OQ = q, OR = r, OS = s$ ,  $(O - ABCD \text{ の体積}) = V$  とおくと,  $O - PQRS$  の体積を 2 通りで表して,

$$\begin{aligned} (O - PQRS \text{ の体積}) &= (\text{三角錐 } O - PQR \text{ の体積}) + (\text{三角錐 } O - RSP \text{ の体積}) \\ &= \frac{V}{2} \cdot \frac{p}{a} \cdot \frac{q}{a} \cdot \frac{r}{a} + \frac{V}{2} \cdot \frac{r}{a} \cdot \frac{s}{a} \cdot \frac{p}{a} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (O - PQRS \text{ の体積}) &= (\text{三角錐 } O - QRS \text{ の体積}) + (\text{三角錐 } O - SPQ \text{ の体積}) \\ &= \frac{V}{2} \cdot \frac{q}{a} \cdot \frac{r}{a} \cdot \frac{s}{a} + \frac{V}{2} \cdot \frac{s}{a} \cdot \frac{p}{a} \cdot \frac{q}{a} \end{aligned}$$

よって,

$$\begin{aligned} pqr + rsp &= qrs + spq \\ \therefore \frac{1}{p} + \frac{1}{r} &= \frac{1}{q} + \frac{1}{s} \end{aligned}$$

今回は  $p = 2, q = 4, r = 3$  なので,  $s = \frac{12}{7}$  とわかる。

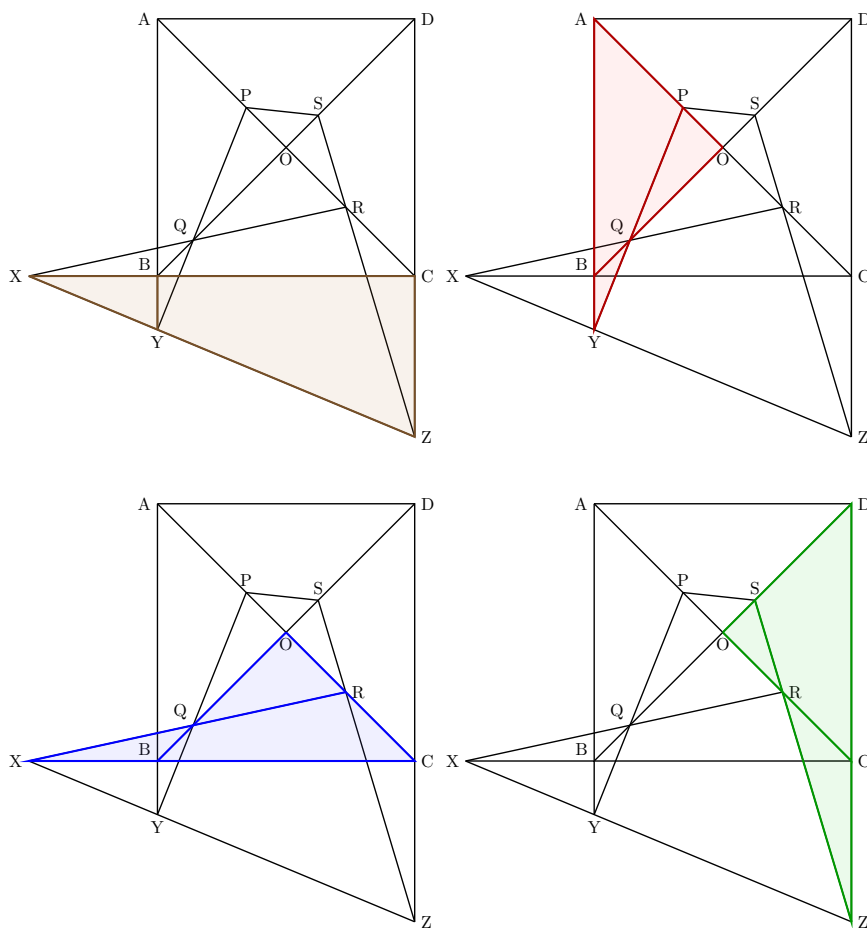
(2)  $OA = OB = OC = OD = a$ ,  $OP = p, OQ = q, OR = r, OS = s$  とおくと, 直角三角形の相似およびメネラウスの定理から,

$$CZ = BY \cdot \frac{XC}{BX} \quad \Leftrightarrow \quad \frac{1}{CZ} = \frac{1}{BY} \cdot \frac{BX}{XC}$$

$$\frac{BY}{YA} \cdot \frac{AP}{PO} \cdot \frac{OQ}{QB} = 1 \quad \Leftrightarrow \quad 1 + \frac{\sqrt{2}a}{BY} = \frac{a-p}{p} \cdot \frac{q}{a-q}$$

$$\frac{XC}{BX} \cdot \frac{RO}{CR} \cdot \frac{QB}{OQ} = 1 \quad \Leftrightarrow \quad \frac{BX}{XC} = \frac{r}{a-r} \cdot \frac{a-q}{q}$$

$$\frac{ZD}{CZ} \cdot \frac{SO}{DS} \cdot \frac{RC}{OR} = 1 \quad \Leftrightarrow \quad 1 + \frac{\sqrt{2}a}{CZ} = \frac{a-s}{s} \cdot \frac{r}{a-r}$$



これらを用いて,

$$\begin{aligned} \frac{a-s}{s} \cdot \frac{r}{a-r} &= 1 + \frac{\sqrt{2}a}{CZ} \\ &= 1 + \frac{\sqrt{2}a}{BY} \cdot \frac{BX}{XC} \\ &= 1 + \left( \frac{a-p}{p} \cdot \frac{q}{a-q} - 1 \right) \cdot \frac{r}{a-r} \cdot \frac{a-q}{q} \end{aligned}$$

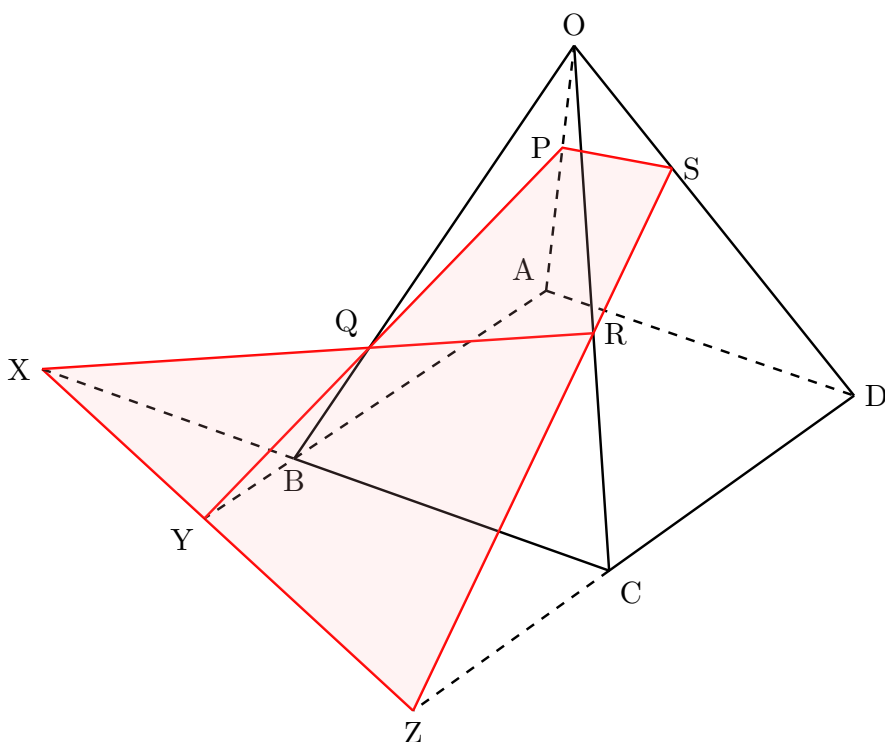
両辺  $\frac{r}{a-r}$  で割って,

$$\begin{aligned}\frac{a-s}{s} &= \frac{a-r}{r} + \left( \frac{a-p}{p} \cdot \frac{q}{a-q} - 1 \right) \cdot \frac{a-q}{q} \\ \Leftrightarrow \frac{a-s}{s} + \frac{a-q}{q} &= \frac{a-r}{r} + \frac{a-p}{p} \\ \Leftrightarrow \frac{1}{p} + \frac{1}{r} &= \frac{1}{q} + \frac{1}{s}\end{aligned}$$

今回は  $p=2, q=4, r=3$  なので,  $s = \frac{12}{7}$  とわかる。

(別解)

次の図をよ〜く睨んでいると (1) と (2) が等価であることがわかる。(この図を上から眺めてみよう)



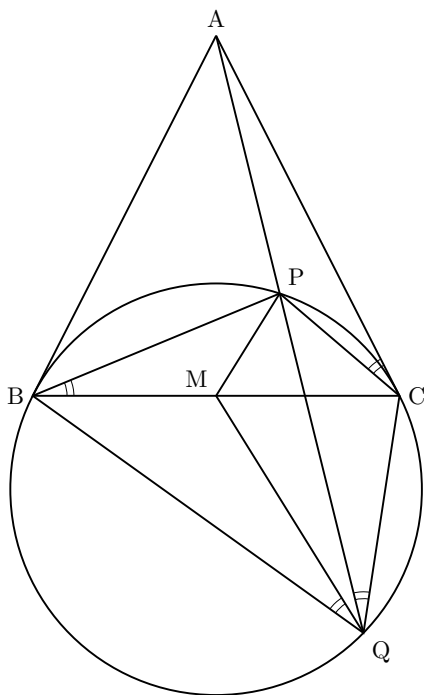
G5

(1)  $\triangle ABC$  の外接円の中心を  $O$ ,  $D$  を中心として  $B$  を通る円と  $AB, AC$  の交点をそれぞれ  $P, Q$  とすると,

$$\begin{aligned}\angle PBQ &= \angle BAQ + \angle BQA \\ &= \frac{1}{2}(\angle BOC + \angle BDC) \quad (\because \text{円周角の定理}) \\ &= \frac{1}{2}(360^\circ - \angle OBD + \angle OCD) \\ &= \frac{1}{2}(360^\circ - 90^\circ - 90^\circ) \\ &= 90^\circ\end{aligned}$$

よって  $QP$  は円  $D$  の直径であり,  $D$  は  $QP$  の中点となる。 $\triangle ABC \sim \triangle AQP$  という相似において,  $M$  は  $BC$  の中点,  $D$  は  $QP$  の中点であることから  $M$  と  $D$  が対応していることがわかる。ゆえに,  $\angle BAM = \angle QAD$ 。

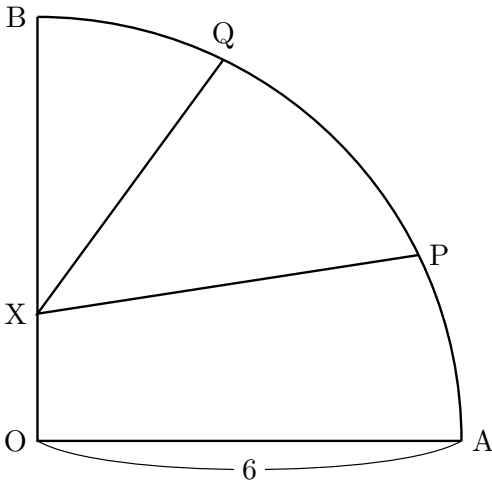




# 数学オリンピックワークショップ 当日問題 G

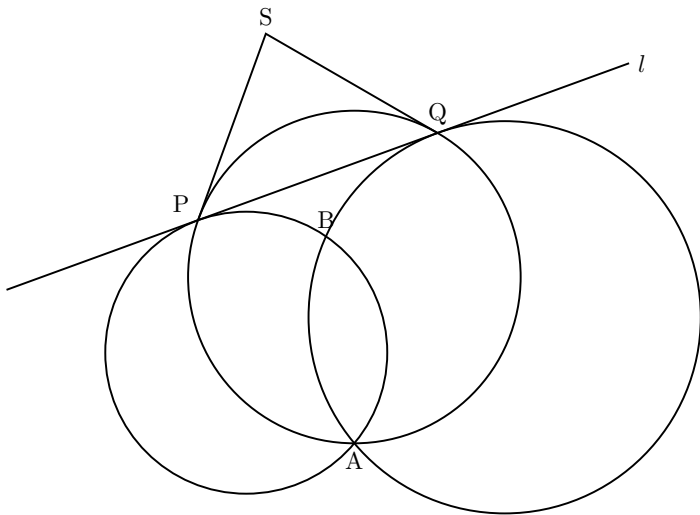
G6 (基礎)

半径 6，中心角  $90^\circ$  の扇形  $OAB$  の弧  $AB$  上に  $\angle AOP = \angle BOQ$  となるように点  $P, Q$  をとる。点  $X$  が線分  $OB$  上を動くとき， $PX + QX$  の最小値を求めよ。



G7 (応用)

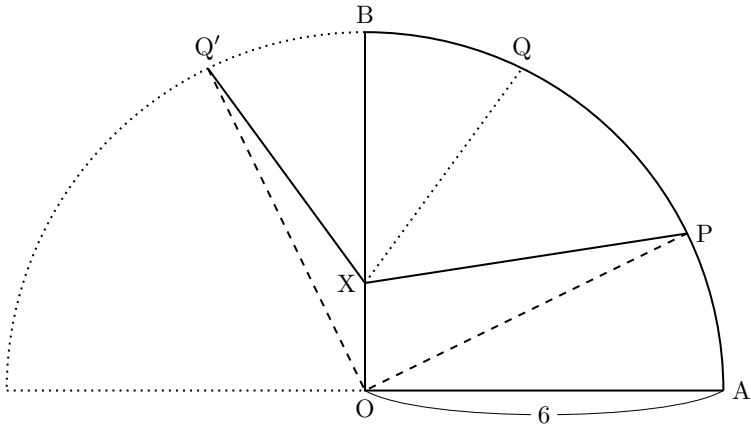
2つの円が平面上で2点  $A, B$  で交わっている。この2円の共通接線を  $l$  とし， $l$  と2円はそれぞれ点  $P, Q$  で接しているものとする。また  $\triangle PAQ$  の外接円の  $P, Q$  における接線の交点を  $S$  とする。 $B'$  を  $l$  に関する  $B$  の対称点とすると， $A, B', S$  は同一直線上にあることを示せ。



数学オリンピックワークショップ 当日問題 G —解答—

G6

OB に関する Q の対称点を Q' とすると、 $\angle AOP = \angle BOQ = \angle BOQ'$  より、 $\angle POQ' = 90^\circ$  となるので、 $\triangle OPQ'$  は直角二等辺三角形。  
ゆえに、 $PX + QX = PX + Q'X$  は P, X, Q' が同一直線上にあるとき、最小値  $6\sqrt{2}$  をとる。

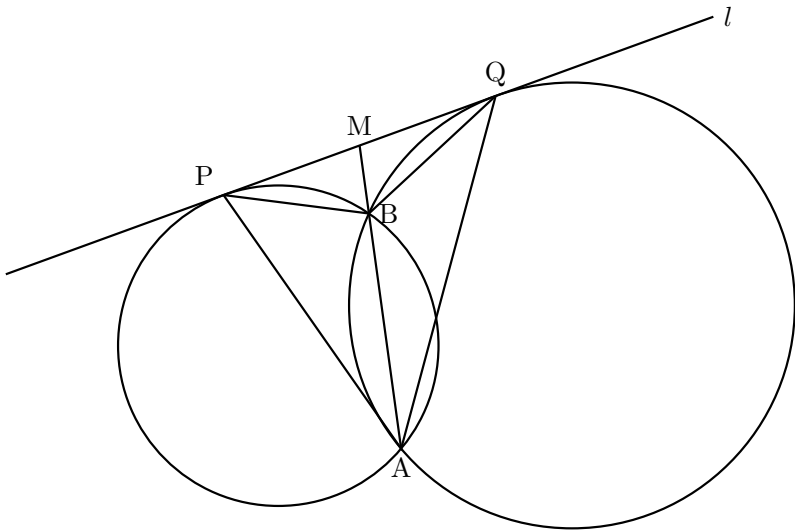


G7

AB と  $l$  の交点を M とすると方べきの定理より、

$$\begin{aligned} MP^2 &= MB \cdot MA \\ &= MQ^2 \end{aligned}$$

よって  $MP = MQ$ ，つまり M は PQ の中点。



ゆえに，AS と  $\triangle PAQ$  の外接円の交点を R とすれば，

$$\angle PQB = \angle QAM \quad (\because \text{接弦定理})$$

$$= \angle PAS \quad (\because \boxed{\text{G5}}(1))$$

$$= \angle PQR \quad (\because \text{円周角の定理})$$

同様に， $\angle QPB = \angle QPR$  もわかるので， $\triangle BPQ \equiv \triangle RPQ$ 。つまり， $B'$  は R に他ならないので， $A, B' = R, S$  は同一直線上にある。

